

環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
成果報告会 発表資料

活動団体名：富士宮市

活動地域：富士宮市全域

活動におけるテーマ・キャッチコピー

富士山と水

地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿

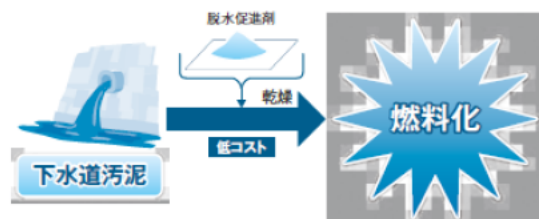
富士宮市 地域循環共生圏

世界遺産富士山のまち富士宮市を環境で元気に! 歴史・文化×産業・観光×環境



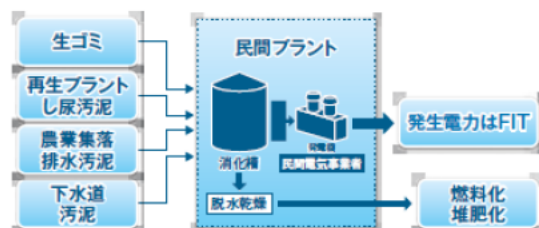
下水汚泥を低コストで 固形燃料化するための実証実験

【地域の廃棄物】を【地域循環資源】に



星山エネルギー拠点化プロジェクト

地域資源を活用し、持続可能な「循環力があるまちづくり」を目指す



おいしいでつながる地産地消

地産地消・食育・食品ロス・容器包装リサイクルなどの課題を「おいしい」でつなげて地域での解決を目指す



富士山の自然を守り、 その恵みを産業で活かす ネットワークを構築し、 持続可能なまちづくりを目指す！



より地域の為になる電力を 選ぶ 育てる

地域の電気を選ぶ、環境意識が向上することで
資金、資源、人材の地域循環を目指す



再生可能エネルギーを軸とした 地域活性化プロジェクト

木質バイオマスや小水力発電等の再生可能エネルギーを
軸とした地域活性化を目指す



地域・市民・企業の連携循環プロジェクト

菜の花の栽培を通じた地域資源循環モデルを構築し、
新たな地域の特産として観光客の増加、環境教育、雇用拡大を目指す



水のまち富士宮 ふれあい大作戦

地元「愛」にあふれる市民が「One TEAM」で取り組む商品開発で
持続可能なまちづくりを目指す



地域のビジョンを実現するための成果指標

世界遺産富士山のまちを環境で元気にするため「**富士山と水**」を地域の自然資源として守り活かすため、富士山の自然を守り、その恵みを産業で活かすネットワークを構築し持続可能なまちづくりを目指します。

歴史・文化 × **産業・観光** × **環境**

短期目標

長期目標

環境

・地域で使う再生可能エネルギー設備の導入
(地産地消エネルギーとしての導入件数)
現状 0 件⇒2020年度目標2件

(木質バイオマスボイラー・小水力発電所)

・再生可能エネルギーの導入により温室効果ガス排出量が削減される

2005年度比、現状14%削減
⇒2050年度80%削減

経済

・観光客数を増やす
現状641万人⇒2020年度目標648万人

・宿泊者数を増やす
現状27万人⇒2030年度目標38万人
・観光客数を増やす
現状641万人⇒2030年度目標720万人
(通過型から滞在型へ)

社会

・環境イベントなどの参加者数
現状3,568人⇒2020年度目標3,600人

・環境への関心、満足度
(環境に興味関心を持ち、連携・協力により環境活動が活発なまち)
2050年度目標6,300人

コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

1	事業の名称	林業の六次産業化（木質バイオマスボイラー）	
	事業の概要	富士山麓の自然体験として、観光客が増加しているキャンプ場において、給湯や暖房機器の化石燃料代替として、地域の木材を活用した木質バイオマスボイラーを導入する。燃料の薪は、地域の木材であるため安価に調達が可能である。 また、森林資源の有効活用により、林業の活性化やエコツーリズムなど滞在型観光として観光客増加を目指す。環境学習の場として、薪割りなどの自然体験等を計画する。	想定される課題・ボトルネック ・林業の担い手不足や後継者の育成や森林整備。 ・未利用木材の量の把握や流通経路拡大。 ・新たな木材流通の確立や買取等のルール作り。 ・エコツーリズムとして、新たな観光ルートが構築できるか。 ・事業化に伴う経費の確保。
2	事業の名称	農業用水を活用した小水力発電（地域のエネルギーと特産品開発）	
	事業の概要	農業用水に小水力発電所を設置し、その電力を地域新電力が取り扱い、農業施設などの電力としてエネルギーの地産地消を達成する。また、発電所や農業施設を観光スポット化し集客を見込む。再生可能エネルギーを軸に地域の持続可能な農業を支える仕組みを作り、稼ぐ農業と環境に配慮した農業経営を他の地域に広げる。	想定される課題・ボトルネック ・水力発電所の稼働に伴う、水利権などの許認可取得。（測水調査など導入までに時間がかかる） ・農産物の選定や販路、生産量の検討。 ・地元で地産地消をベースに、特産品化を図る。 ・事業化に伴う経費の確保。
3	事業の名称	下水道汚泥の固形燃料化	
	事業の概要	下水汚泥を、低コストで固形燃料化し、バイオマスボイラーなどの燃料として活用する。廃棄物である下水汚泥が、地域を循環する燃料として商品化され、地域バイオマス燃料として汎用化する事業化を目指す。 化石燃料の代替として実用化し、地球温暖化対策に寄与する。	想定される課題・ボトルネック ・脱水乾燥剤を利用し、送風・攪拌方法による下水汚泥の乾燥化実証実験に必要な場所の確保。 ・固形燃料化のために、燃焼実験などデータ分析。 ・固形化の形状や品質を研究と販路の検討。 ・事業家に伴う経費の確保

今年度事業の成果と課題、今後の意気込み

今年度の成果

(本事業に取り組んで良かったこと)

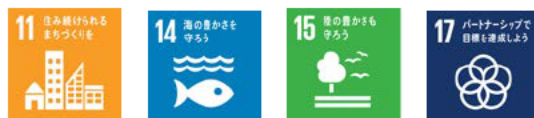
- 地域のための再エネや省エネの重要性が認識できた。
- 異業種や異分野などの幅広い関係者が、共通点をもって集まり、意見交換や情報交換ができたことは大きな成果と感じている。SDGsの「パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に前進できた。
- 地域資源として「おもてなしの心」、「人と人のつながり」、「地域コミュニティ」などが挙げられ、コミュニティパワーで環境問題を考えるきっかけができた。

地域の活動の上での課題

- 事業計画を作成する上で、地域の条件（規制や法令、合意形成など）を確認するとともに、行政として何が支援できるのかあらかじめ整理が必要。
- 環境問題の解決に向けて様々な視点から取り組むためには、組織横断的な連携や調整が必要。



今後の意気込み



- 河川の環境課題の検討や、活動の連携を進めます。

河川愛護団体などを中心に高校生や地域住民などを巻き込み、河川や海の環境問題について検討。川や水辺の環境を守ることは、地域の環境や歴史、文化、産業、観光を守ることに繋がります。

4月～活動団体の調査

6月～体験による現状調査、ワークショップ開催など

ステークホルダー：世界遺産に相応しい美しい川づくり協議会

